

一般国道153号

あ すけ
足助バイパス

(道路事業)

説明資料

平成27年12月3日

中部地方整備局
名四国道事務所

目 次

1. 事業概要

- (1) 事業目的 P. 1
- (2) 計画概要 P. 2

2. 評価の視点

- (1) 地域と協働したストック効果の取りまとめについて P. 3
- (2) 事業の効果等に関する視点
 - ① 交通混雑緩和／歩行者の安全確保 P. 4
 - ② 走行性の改善／線形不良箇所の解消 P. 5
 - ③ 観光活性化(観光まちづくりの促進) P. 6
 - ④ 観光活性化(観光客数の増加) P. 7
 - ⑤ 物流効率化 P. 8
 - ⑥ 地域経済の活性化(ビッグデータで見る効果) P. 9

- 3. 対応方針(原案) P. 10

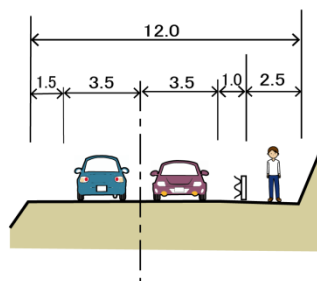
1. 事業概要：一般国道153号足助バイパス

(2) 計画概要

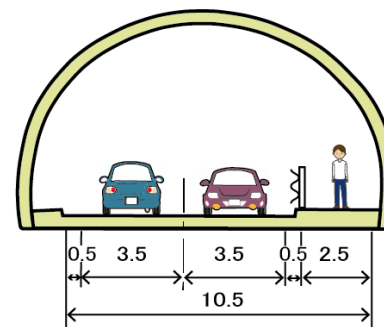
事業名	一般国道153号 ^{あすけ} 足助バイパス
道路規格	第3種第2級
設計速度	60km/h
車線数	完成2車線
都市計画決定	—
事業化	昭和57年度
用地着手年度	昭和62年度
工事着手年度	昭和63年度
事業完了年度	平成22年度
延長	4.0km
前回の再評価	平成19年度 (指摘事項なし:継続)
全体事業費	160億円
B/C	1.1



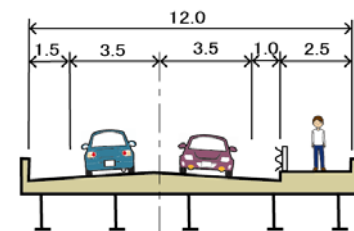
<土工部>



<トンネル部>



<橋梁部>



(単位:m)

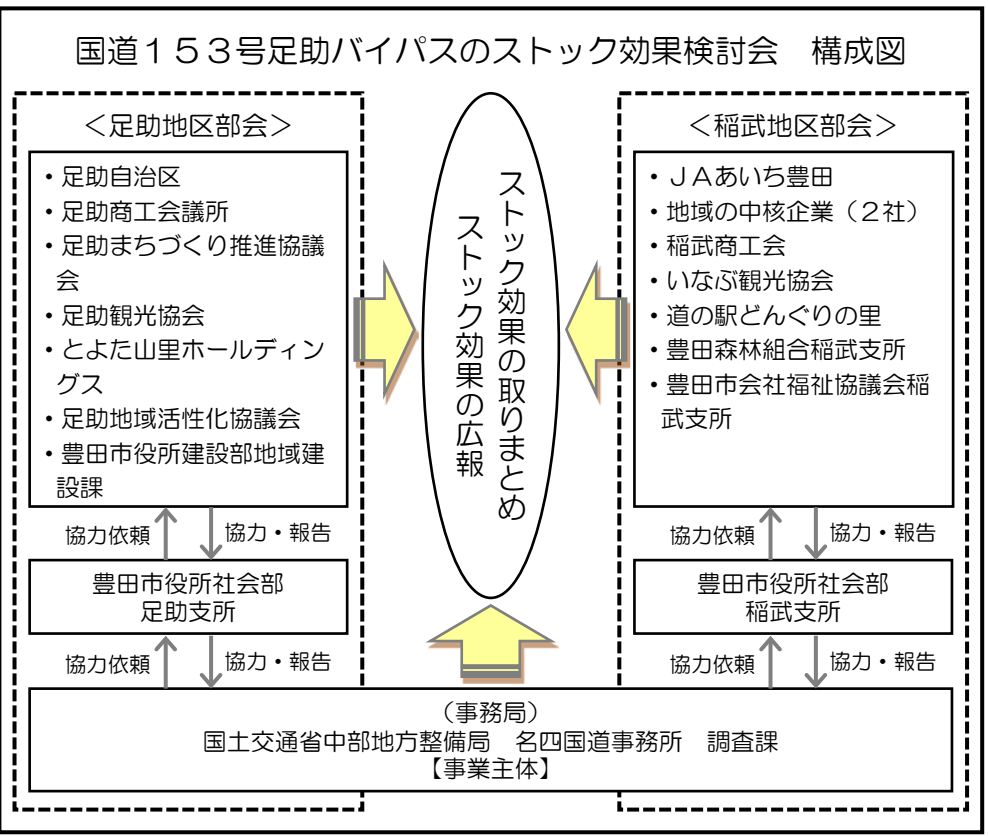
2. 評価の視点：一般国道153号足助バイパス

(1) 地域と協働したストック効果の取りまとめについて

- 足助バイパスの全線開通から5年が経過したことを契機に、住民・企業など各種団体・行政が一体となって、地域に発現したストック効果を取りまとめました。
- 取りまとめたストック効果は、検討会に参画いただいた地域の代表者と協働で発信し、地域への浸透を図っています。

■ 検討会の構成

～地域と一緒に作りあげるストック効果～



■ 検討会のようす



■ 取りまとめた結果は道の駅や商工会等で発信

<整備効果を冊子で取りまとめ>

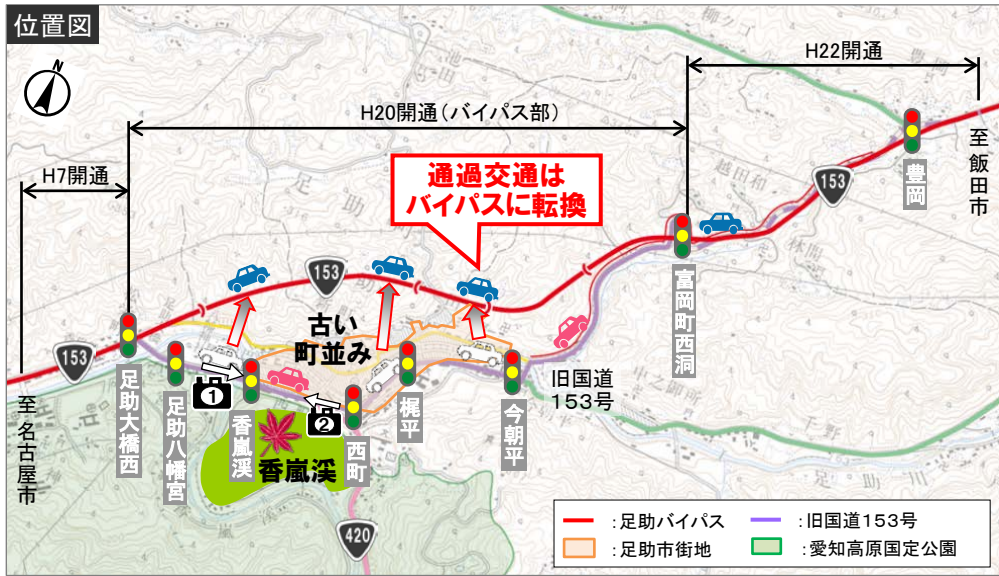


2. 評価の視点：一般国道153号足助バイパス

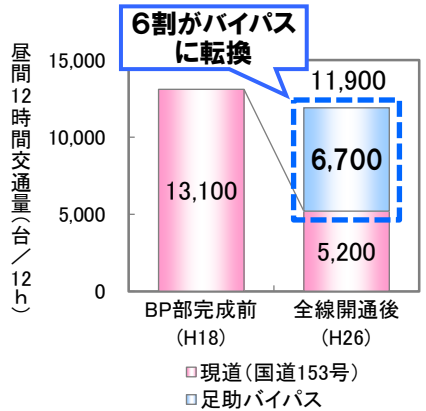
(2) 事業の効果等に関する視点 ① 交通混雑緩和／歩行者の安全確保

- 足助市街地の通過交通は、観光期に混雑する香嵐渓付近を迂回できるようになり、交通混雑が緩和しました。
- 足助市街地から通過交通が排除され、通学児童をはじめとする歩行者の安全性や安心感が高まりました。

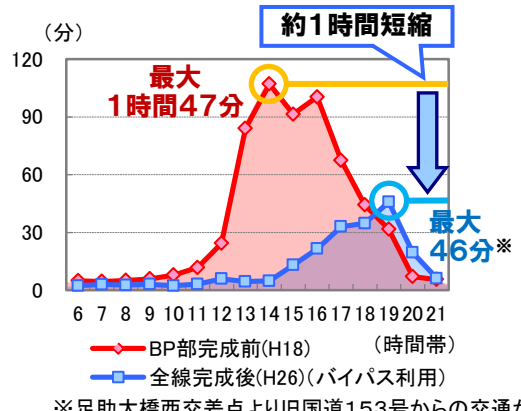
足助市街地を迂回する足助バイパスが開通し、通過交通が転換



＜観光ピーク期の交通量（全車）＞



＜観光ピーク期の足助地区所要時間＞



出典：旅行速度調査 (開通前：H18.11、開通後：H26.11)

※足助大橋西交差点より旧国道153号からの交通が流入しバイパスからの交通の流れを妨げられる対象区間：富岡町西洞交差点→足助大橋西交差点
 出典：旅行速度調査(開通前：H18.11、開通後：H26.11)

通過交通がなくなり、歩行者の安全性や安心感が向上



旧国道153号1本に交通が集中

足助バイパスに通過交通が迂回し、現道も渋滞緩和



通過交通が生活圏内に入り込み歩行者の通行が危険

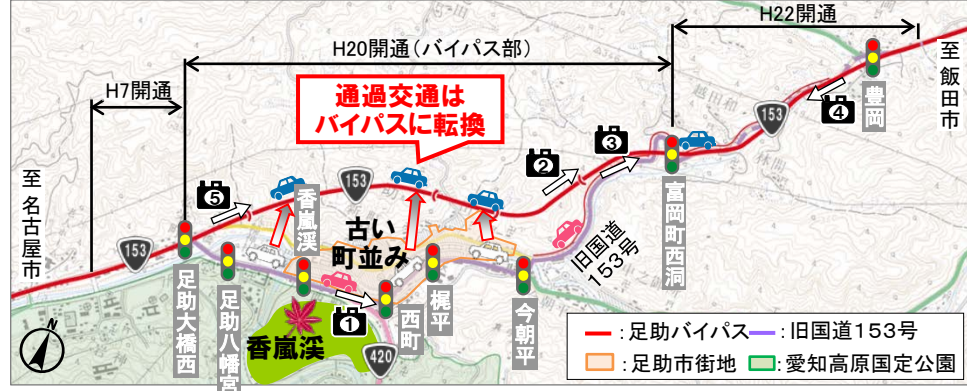
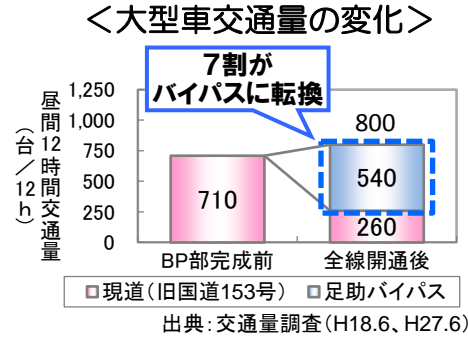
市街地内の交通量が減少し歩行者の安全性が向上

2. 評価の視点：一般国道153号足助バイパス

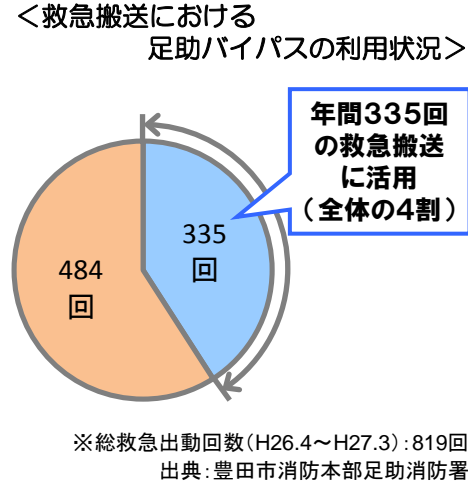
(2) 事業の効果等に関する視点 ② 走行性の改善／線形不良箇所の解消

- 足助市街地を迂回可能なバイパスが開通し、大型車の約7割がバイパスルートへ転換しました。
- 道路線形が改良されたことで急カーブ※区間が解消され、救急搬送時の患者さんの負担も軽減しています。

■ 足助バイパスの開通により、通過交通がバイパスに転換



■ 急カーブ※区間が解消し、救急搬送時の安定走行が可能に



<利用者の声>

救急搬送時の安定走行が可能に

- 曲がりくねった道路を走る必要がなくなり、迅速かつ患者さんへの負担が少なく搬送できるようになりました。
- 豊田市中心部(トヨタ記念病院など)へ搬送する場合に、足助バイパスは有用であり、利用しています。

消防署職員

2. 評価の視点：一般国道153号足助バイパス

(3) 事業の効果等に関する視点 ①観光活性化(観光まちづくりの促進)

■足助地区は、観光の中心である「香嵐溪」と「古い街並み」の地域が旧国道153号の通過交通等で、2つに分断されていました。足助バイパス整備を契機として「古い街並み」の景観整備を行う等バイパス整備が観光まちづくりの促進につながっており、「香嵐溪」地区と一体となったイベントが企画できるようになりました。

■足助バイパス開通に伴う、市街地の一体感形成

位置図(BP開通前)

国道153号で香嵐溪と古い町並みが分断

古い町並み ← 旧国道153号 → 香嵐溪

位置図(全線開通後)

通過交通はバイパスに転換

市街地の分断が解消

通過交通がバイパスに転換 車両の通行を規制した祭事等の開催が容易に

足助バイパス

＜古い町並みと香嵐溪が一体となったイベントの例 (中馬のおひなさん：2～3月)＞

足助バイパス

無電柱化整備箇所

旧国道153号

香嵐溪

展示場所

【期間】平成27年(2015) 2月7日(土)～3月8日(日)

【期間中の催し】

- かんどう 2月7日(土)
- 3月1日(日)
- 北川組付家祭 2月14日(土)、21日(土)、22日(日)、28日(土)
- 建てかえコンパシー 2月7日(土)～3月8日(日)
- 町並みスタンプラリー 2月7日(土)～3月8日(日)
- 賢で「でくら」を遊ばせませんか? 2月19日(土)、25日(金)、26日(土)

資料提供：足助観光協会

＜古い町並みの景観整備により街のにぎわいが創出＞

・足助地区は、旧街道沿いの元宿場町であり、バイパス整備と併せて古い町並みを整備。官民が連携し、古い町並みの再構築として、無電柱化工事(H21～H25年度、L=1,790m整備)などを行い、H27に第10回町並み大賞を受賞。



＜関係者の声＞

バイパス整備と併せて、地域の景観整備が加速

- ・足助は観光を売りにする町であり、旧街道沿いの古い町並みを大切な観光資源として整備してきました。
- ・バイパス開通後は、それまでの古い町並みの整備にとどまらず、香嵐溪地区とのイベント開催も企画できるようになりました。



出典：ヒアリング調査

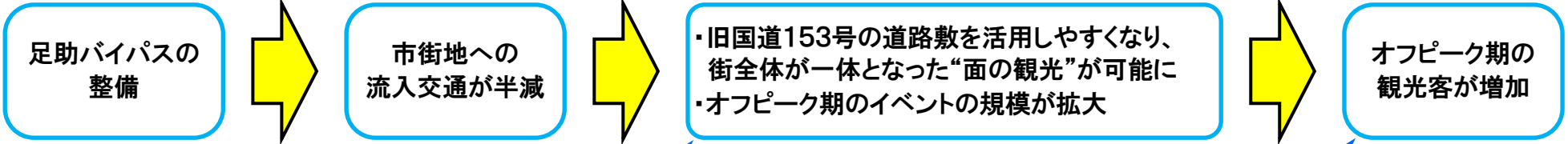
写真提供：豊田市役所足助支所

2. 評価の視点：一般国道153号足助バイパス

(3) 事業の効果等に関する視点 ②観光活性化(観光客数の増加)

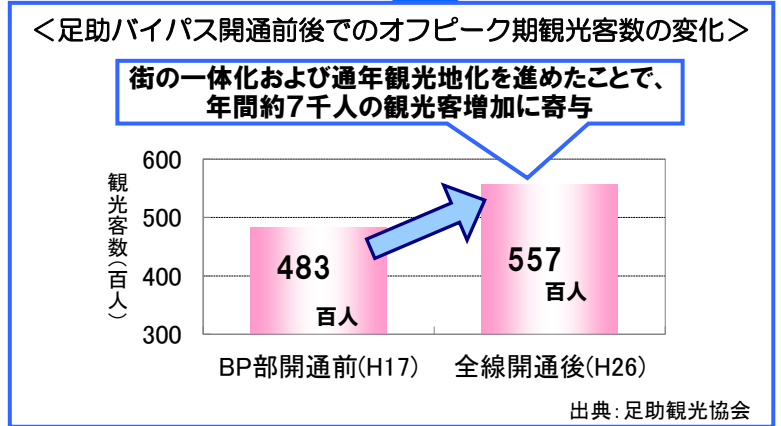
■ 足助バイパスの開通を契機に、観光まちづくりが促進された結果、街全体が一体となった“面の観光”が実現しました。年間を通したイベント開催により、オフピーク期でも観光客が増加しています。

■秋の香嵐溪以外での時期の観光客が増加



＜年間を通して開催される足助のイベント＞

<p>中馬のおひなさん</p> <p>景観整備とも相俟って、当初15件の展示軒数が10倍に</p> <p>2・3月</p>	<p>あすけルネッサンス</p> <p>街全体を活用したスタンプラリーや新たなイベントが開始</p> <p>4月</p>	<p>あすけルネッサンス</p> <p>街全体を活用したスタンプラリーや新たなイベントが開始</p> <p>5月</p>	<p>足助まつり</p> <p>道路敷を活用した山車の引き廻しが盛大に</p> <p>8月</p>	<p>足助まつり</p> <p>道路敷を活用した山車の引き廻しが盛大に</p> <p>10月</p>	<p>足助まつり</p> <p>道路敷を活用した山車の引き廻しが盛大に</p> <p>11月</p>
<p>足助春まつり</p> <p>道路敷を活用した山車の引き廻しが盛大に</p>	<p>たんころりん</p> <p>景観整備と相俟って、提灯の陳列エリアが拡大</p>	<p>香嵐溪もみじまつり</p>			



＜関係者の声＞

街全体が一体となった“面の観光”が実現

- 足助バイパス開通後は、香嵐溪と古い町並みが一体になり、これまでよりも規模の大きなイベントが実施できるようになり、“点の観光”から“面の観光”に変わりました。

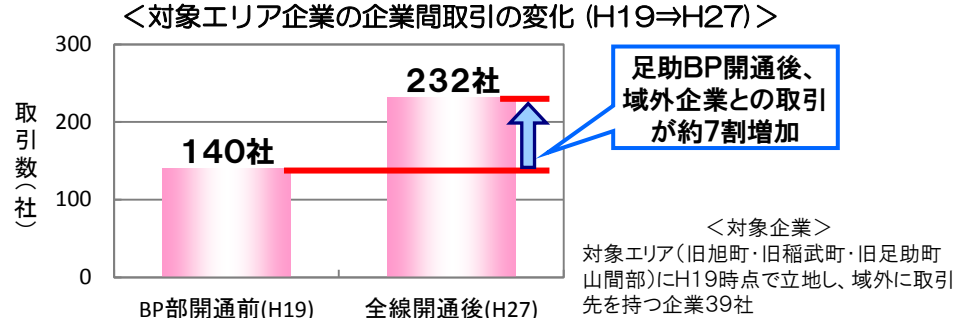
足助地域活性化協議会

2. 評価の視点：一般国道153号足助バイパス

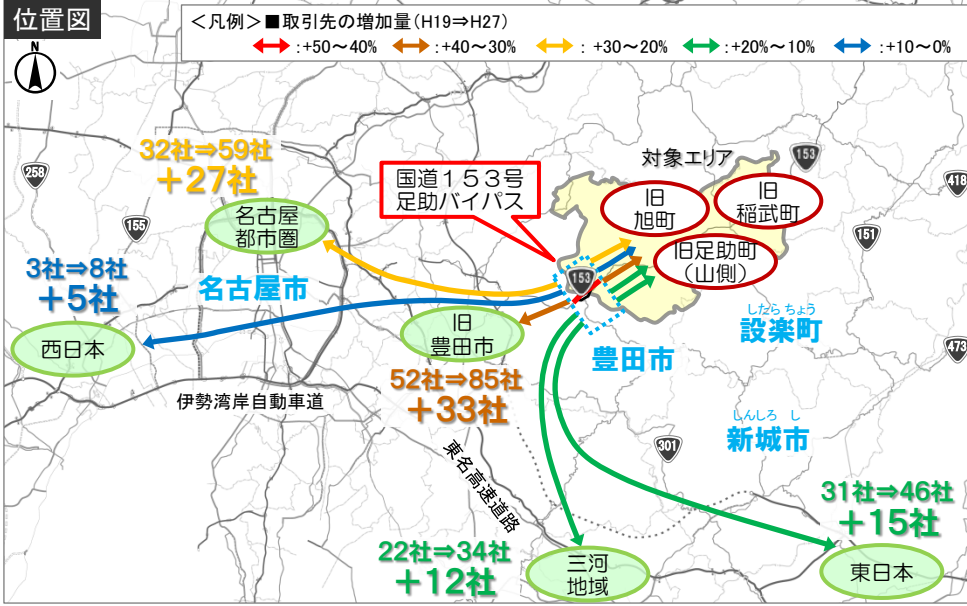
(3) 事業の効果等に関する視点 ④ 地域経済の活性化(ビックデータで見る効果)

■ バイパス整備が山間部に立地する企業の取引先拡大に貢献し、地域経済の好循環を促しています。
 ■ 対象エリア(旧足助町、旧旭町、旧稲武町)24社を対象に調査した結果、これまで取引の少なかった西日本や東日本エリアに立地する企業との取引が約7割増加しており、民間投資の拡大へとつながります。

■ 足助バイパスの開通に伴い、域外との取引が増加

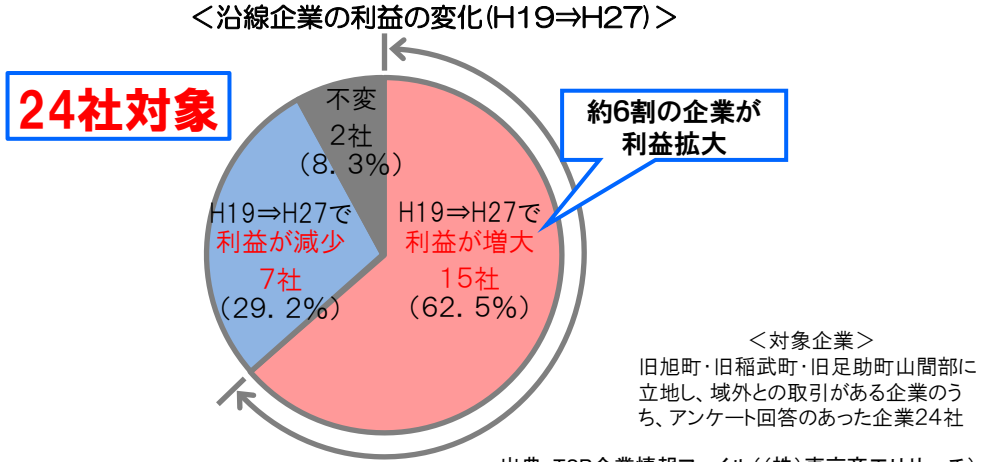


出典：TSR企業情報ファイル((株)東京商工リサーチ)



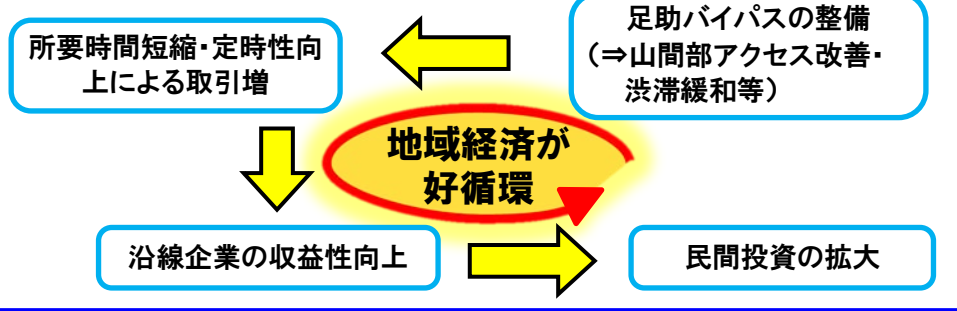
出典：TSR企業情報ファイル((株)東京商工リサーチ)

■ 対象エリア企業の収益性が向上



＜道路整備を契機とした地域経済の好循環 (イメージ)＞

・道路整備に前後して沿線に企業が進出し、整備効果発揮により沿線企業の収益性が向上し、ひいては民間投資の拡大につながる。



4. 対応方針(原案)

(1) 今後の事業評価の必要性

■一般国道153号足助バイパスは事業が完了しており、整備目的どおりの効果が発現していることから、今後の事後評価の必要はないと考えます。

(2) 改善措置の必要性

■一般国道153号足助バイパスは、整備目的を達成していると判断できるため、改善措置の必要はないと考えます。

■今後は、一般国道153号の各区間における交通状況を踏まえ、必要性に応じてバイパス整備や局部改良等を検討します。

(3) 同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性

■一般国道153号足助バイパスは当初の整備目的どおりの効果を確認していることから、同種事業の計画・調査のあり方や事業評価手法の見直しの必要性はないと考えます。